

# 三遊亭らん丈 後援会会報

## 『リベラリズムに拠る

## Ranjo Workshopについて』

三遊亭らん丈

二〇〇三年の一月から毎月一回原則と

して土曜日から日曜日の夜間に、まちだ中央公民館学習室を会場に、らん丈はワークショップという名の勉強会を続けています。

ワークショップの説明は今更するまでもないでしょうが、念のために申し上げますと、もともとはその名の通り、ワークショップとは仕事場のことでした。けれど近年はもうひとつの意味、「所定の課題についての事前研究の結果を持ち寄って、討議を重ねる形の研修会」（『広辞苑』第五版）として、使われることが増えました。国立国語研究所が出した外来語の言い換え案では「研究集会」と

なっています。

いずれにしろ、そこで行われていることは態の好い井戸端会議、といったところでしょうか。たとえば、九月は今話題の小泉内閣が進める三位一体改革の中心、特に、義務教育費の国庫負担についての論議を楽しみました。

そう、ここが大事なのですが、ここでの論議は、相手を論難することが目的ではなく、参加者の理解を深めるためのものなのです。

そこで最も嫌われるのは、美しくない議論です。それぞれの参加者の姿かたちが（いいおっさんなので）、さほど美しくないのですから、論議くらいは美しいも

のにしたい、というのがせめてもの心意気です。

さはさりながら、らん丈のバックボーンとなる拠り所はあり、それはリベラリズムです。

今日、リベラリズムの定義は必ずしも一定ではないようですが、らん丈の母校、立教大学大学院法務研究科の渋谷秀樹教授は、その専門である憲法学の立場から、「リベラリズムとは、自分と考え方の違う人を力によって屈服させるのではなく、お互いの違いを認め合って共に平和に生きることを志向し、また弱者には救済の手を差し延べることをいとわない立場を意味します」と言明しています。

まさにらん丈の立場を、これほどの確に表すものはないと思います、ここに掲示させていただきます。

ただ、これではいかにも建前を言っ

いるだけだという批判を受けてしまうので、具体的なことを記すと、「小さな政府」か、政府が市場に介入することを是認するのか、という対立軸ならば、政府の介入は必要不可欠との立場ですし、社会の秩序と規律を重視し、伝統を重んじ、異端に対しては冷淡に振る舞うのか、それとも経済的弱者に対しては、総じて寛容であり、コスモポリタンの観点から、文化的相対主義をとるのかと問われれば、後者を支持します。

もつと簡単にいえば、ソ連邦が一九九一年に解体され、政治勢力としての社会主義が溶解してしまったために、保守と革新という色分けが機能しなくなった後に、新たな対抗軸として浮上した、リベラリズムかリバタリアニズム（自由至上主義）かという二者択一では、前述のようにリベラリズムを支持するということが可能です。

しかし、らん丈ワークショップではこのような、教条主義的な言説を振り回すことはなく、もつと身近な問題について、話し合っています。

たとえば、今日の市民に最も要請されていることは、「地方自治」の体现である

る。「協創」社会の確立、といったことです。今までの市民は、行政に不満があるとした、それについて文句を言うだけでしたが、これからはそうはいきません。なぜならば、累積された膨大な公共部門の財政赤字は他ならぬ、市民の要請に応えてきた結果招来された、という考え方が出来るからです。

ですから、市民が行政ばかりを頼らずに、率先して自ら行動しなければ、公共団体は立ち行かなくなってしまうのです。

そこでは、一人ひとりの市民が持つ能力、専門性を活かして社会づくりにより貢献する「協創」が、不可欠の要素となる

## 『さて、政治とは』

今年度（二〇〇四年度）開設された早稲田大学国際教養学部は、英語ができなると卒業させてくれないシステムとなっていて、それが証拠に、基礎演習A、情報処理入門、数理統計入門以外の講義はすべて、英語を使用言語とするのだからです。

これは社会の動向に国際化に配慮したごく当たり前の措置とはいえ、英語を使

ります。

これこそ、「地方自治」です。そのうえで、市場ではなく政府に任せるべきところは任せて初めて、適正な政府が実現されると、ぼくは考えています。

ご興味をお持ちになったら、是非、らん丈ワークショップにご参加ください。開催日時はらん丈HPにその都度、掲示していますので、どうぞお確かめのうえです。ご不明の際は、ご面倒でもメールにてお問合せください。

ご来場を、心からお待ち申し上げております。



らん丈のメールマガジン配信受付中  
<http://www.ranjo.jp/mag2/index.htm>

## 三遊亭らん丈

えない当方としては、空恐ろしい世の中になったものだと、つくづく思いますね。そこでは当然、日本人の教員も英語で講義を展開するのですが、生物学担当の池田清彦教授（構造主義生物学）は、エッセイの優れた書き手でもあり、ぼくは好んで読んでいます。

同教授が、『本の旅人』（角川書店）に連載している「やがて消えゆく我が身な

ら」を読んでいたら、多くの人のとって政治とは自分の情緒をいかにして合法的に他人に押し付けるかということらしい。」という一節に巡りあいました。

なるほど、たしかにそうですね。

実にしばしば、「政治が悪い」という言葉を聞きます。いいえ、むしろこの言葉を聞かないで、一週間を過ごすのは今の日本では難しいといつても好いほどに、何か問題があればあなたかも枕詞でもあ

るかのよう、この言葉が使われます。たしかに、今の政治に満足している方はごく少ない、といつてもいいでしょう。

その結果として、かつてあれほどの人氣を誇った小泉首相でしたが、いまやその支持率は下降するばかりで、これは痛みばかり押し付ける小泉構造改革路線への、国民の不支持の表明に他なりません。けれど、小泉総裁を誕生させた原動力は、自民党の派閥力学ではなく、輿論でした。

国民の支持を背景に党内基盤が弱かった小泉候補が、党内では磐石の支持を取り付けたと思われた、最大派閥橋本派会長（当時）橋本龍太郎元総理の足を掬って、総裁の地位を手中に収めたのです。

輿論を背景に誕生した小泉政権ですから、輿論の支持がなくなれば、次は自民党に擦り寄るかあるいは、離反した輿論を再び引き寄せるために公約実現に邁進するのか、のどちらかです。

過日の、自民党三役人事や第二次小泉改造内閣の顔触れを見ると、どうやら後者を選択したようです。これぞ「虚仮の一念」内閣とでもいうのでしょうか。

そもそも輿論の支持なくしては成立しない、政治家＝議員とはどんな存在なのでしょう。

それは、市民の意思を体現し、官へのチェック機能を果たす役割を担った存在と認識するのが最も一般的な考え方でしょう。

ところが、市民の意思は自己肥大化してしまふものでもあります。その好い例が、大所高所から見ても不要不急と思われる公共工事です。たとえば、本州四国連絡架橋は本当に三本も必要だったのでしょうか。これはその計画を一本に収斂すべきでしたが、住民の声を背景に実行を迫った政治家に、官の抵抗は空しく、それはかないませんでした。

このように、官の不正をチェックすべ

き政は、時として必要以上の欲望を訴える存在でもあります。

その失政の付けは、結局国民が負担することになります。

先の池田清彦が続けてこう書いています。自分たちの情緒のみが正しいという思い込みが、この世界のすべての不幸の源泉である。と。

本四連絡架橋でいえば、それぞれのルートを推進した勢力は、自分たちの情緒のみが正しい」と信じ込み、三本の橋を架けさせたのです。

ただ、内村鑑三が言うように、「思うに代議政体は、（中略）「それほど悪くもなければ、それほど良くもない」組織なのであって、今さら封建制に戻るわけにもいかず、ほかに代わるものがないのです。

先ほどの話に戻れば、今の政治が悪いのならば、それを選択した市民が悪いのです。

東大法学部教授から、国連代表部次席大使に民間人として初めて起用された北岡伸一は、よくが学生時代、その講義「日本政治史」を受講した恩師でもあります。国民から税金を取るのも、戦

争を始めるのも政治家である。彼らが無能だと、国民の安全も繁栄も、危なくなってしまう。政治に対する無関心や政治家に対する蔑視こそ、危険な態度であるといわなければならない。”と言っていました。まさに、政治を良くしたいのであれば、それは良き市民が果たさなければならぬ、責務なのです。

自分の生活に精一杯で、政治には関わりたくないと思っている方を、じつにしばしばお見受けしますが、そういう方が増えて喜ぶのは、既得権益の持ち主で

**「どうしまショウ」**  
**MC 大槻憲子**  
 十月二十七日(水)午後六時半開演  
 新宿永谷ホール(下図参照)にて販売：千八百円

今のところ町田市で生まれ育った落語家は、らん丈ひとりを数えるのみですが、アナウンサーとなると結構いらっしゃるのかもしれない。

今回のゲスト、フジテレビの笠井信輔さんも、町田市に住んでいたそうです。

平日の午前中に放送されている「とくダネ!」の内輪話も含めて、テレビ界の内情も伺いましょう。

もうおひとりのゲスト、大槻憲子さん

あって、それに異を唱えたいのであれば、なんらかのアクションが伴います。

不平は持つけれど、手を拱いているばかりでは、既得権者に手を貸していることになるのです。

最も簡単にして重要な政治参加は、投票行動です。

そしていつかは、”人々が皆政治の事など知らなくて済むようになれば、それが最もよい”と志賀直哉がいったことが実現されれば、それこそ、市民がその責務を全うしたことになるのです。

は横浜の名物となった人力車クラブの所長さん。

人力車に乗ると、いつもとは違う街並が眼前に展開されることでしょう。物は試しです。一度ご乗車になられることをお奨めします。



次々回は『町田市民ホール』2005年2月13日(日) 開催予定

「三遊亭らん丈」後援会入会要項

入会金(会員証作製費+郵送料)として入会者全員から二千円申し受けます。

年会費は四千円ですが、池袋演芸場で行う『どうしまショウ』の入場券(二千円相当)を年間で二枚(四千円相当)差し上げます。

◎入会金二千円+年会費三年分一万二千円→一万八〇〇円、合計二、八〇〇円

年会費を三年分前納して下さった方には、10%割引させていただきます。

◎入会金二千円+年会費二年分八千円→七、六〇〇円、合計九、六〇〇円

年会費を二年分前納して下さった方には、5%割引させていただきます。

◎入会金二千円+年会費一年分四千円、合計六、〇〇〇円

会員証と後援会会報のみ御送ります。

※振込先口座※

郵便振替口座00100011730458

加入者名・三遊亭らん丈後援会

《東京三菱銀行・町田支店》

普通預金・2085250 三遊亭らん丈

《みずほ銀行・町田支店》

普通預金・8046459 三遊亭らん丈

《三井住友銀行・町田支店》

貯蓄預金・7264788 三遊亭らん丈

《UFJ銀行・町田支店》

貯蓄預金・1096152 三遊亭らん丈

《りそな銀行・町田支店》

普通預金・1093822 三遊亭らん丈

《イーバンク銀行》http://www.ebank.co.jp/  
 支店番号209・口座番号1393592